

回向(えいこう)について

回向とは読んで字の如く「向(こう)へ回す」ということで、また「こちらへ回ってくる」という意味も含まれております。

我が身を慎(つつし)み、祖先を尊(とうと)び、家業に精を出し、その余徳(よとく)をもって社会奉仕に努(つと)める。この姿が真の仏教徒の勤めであり、生活であります。社会奉仕をすることは「世のため、人の為に尽くす」こと、即ち「功德を積む」ことです。その功德のご利益を自分で受けしないで、まず「亡き方々の為に回して差し上げる」これが回向であり、そうすることによって更にその「功德は回りまわって自身の上に向いてくる」ことになるのであります。諺にも「情けは人の為ならず」とありますように、必ず、「積善(せきぜん)の家には余慶(よけい)あり」です。花を上げ、香を薫(くん)じ、お塔婆を建てること、勿論大切な供養の一つです。更に世の為人の為に、善業(ぜんごう)を施し、その功德を祖先の霊に捧げて回向することがどんなに供養になるか量り知れないものがあります。

よく「私の家には先祖はありません」と、いう方があります。又「先祖、先祖というけれど、一度も見たことがないのだから私には関係ない」という人もいます。なんとも情けない人達ではありませんか。私たち自身の代で子孫が絶えることはあつても、私たちに先祖のない人は一人もこの世に存在しない筈です。

先ず私とあなた。その一人がこの世に生を享(う)けるには、両親二人があり、その両親二人には四人の親があり、その四人には八人、八人には十六人の親(先祖)が居たはずです。十代遡(さかのぼ)ると千二十四人、二十代遡ると五十二万四千二百八十八人、同様に三十代遡れば実に五億三千六百八十七万一千九百三十六人の先祖が必要で、その内一人欠けても私とあなたの生命は現存しないこととなります。又換言すれば、そのように多くのご先祖の方々の血を受け継いでいるわけです。

如何に一人の生命が大切かを知ると同時に「ご先祖のありがたき、尊(とうと)きに感謝せずには居られないわけであります。

「供養」の意味は、親に「おいしいものを差し上げ、優しい言葉をかけて孝養を尽くす」ということであり、現存する親に尽くすことを孝行といい、亡き

ご先祖に尽くすことを大孝(たいこう)といいます。共に供養であり、回向でもあります。

